

仏教と雅楽

成田山の大本堂での御護摩祈祷時に雅楽が流れますが、なぜだろうか？

仏教では、仏さまへの供養の為に歌舞音曲を奏樂しますが、成田山では特に開山の祖師である寛朝大僧正が笛の名手で、また作曲などもされていたと伝えられています。御本尊不動明王の御宝前にて奏樂し供養することが伝統的に行われているようです。

雅楽とは

雅楽は、朝鮮半島や中国大陸などアジア大陸の諸国からもたらされた音楽や舞が、日本古来の歌や舞に加わり融合し、日本化した音楽芸術で、平安時代に整えられたもので、世界最古の大規模な合奏形態として、今日まで傳承されています。

大規模な合奏形態というとオーケストラを想像しますが、それらとは違い雅楽には指揮者がいないため、そのテンポも一定のリズムを刻むのではなく、演奏者同士の阿吽の呼吸によって奏でられます。しかし通常は鞆鼓（かっこ）担当者が演奏の開始や終わりの合図、曲の流れや緩急をリードして演奏のテンポを決めたりします、即ち指揮者の役割を担います。

雅楽と仏教の関わり

雅楽は今日では宮内庁式部職 楽部をはじめ、さまざまな寺社仏閣などで見聞きすることができますが、仏教と雅楽にも密接な関係があります。

歴史上、仏教も雅楽も、日本へはともに中国大陸および、朝鮮半島を経由して伝来しました。そして、日本への伝来以前にすでに音楽が仏教儀式的場に欠かせないものとして存在していました。それは、伝来してきた雅楽の楽曲名に「伽陵頻」（かりょうびん）（仏教でいう極楽浄土にいるという鳥の名前）や「菩薩」（仏の覚りを求める修行者）などがあることでよく理解できます。

また、日本伝来以降でも仏教儀式に雅楽が演奏されたという記録が残されています。古くは奈良の「東大寺」で、大仏開眼供養会（開眼法要）において林邑楽（りんゆうがく）（ベトナムの僧侶が伝えたといわれる音楽）の楽曲が奏されたと記録されています。

また「栄華物語」や「源氏物語」の中には、雅楽の舞はまるで自分が仏さまの世界にいるかのように感じられ、雅楽の音色は仏さまの声そのものであるかのように聞こえるなどという表現がなされています。

このように仏教における雅楽の演奏は、まさに仏さまの世界をこの世で再現するものであったと言えます。

雅楽には主に、「管絃」（かんげん）「舞楽」（ぶがく）「歌謡」（うたよう）の三つの形態があります。

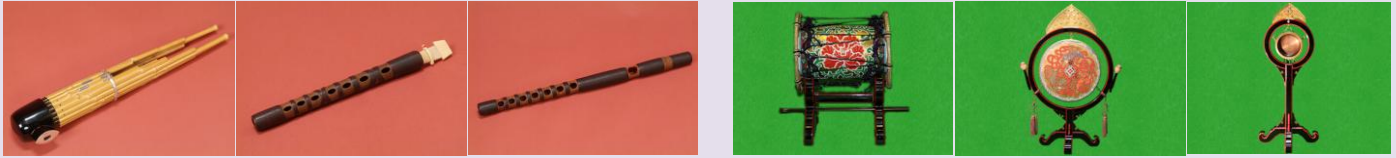
「管絃」（かんげん）は楽器だけの演奏表現で、正式には笙（しょう）・箏（ひちりき）・龍笛（りゅうてき）の管楽器、琵琶（びわ）・箏（こと）の絃楽器、鞆鼓（かっこ）・太鼓（たいこ）・鉦鼓（しょうこ）の打楽器の編成で演奏されます。

「舞楽」（ぶがく）は音楽とともに奏する舞で、一人で面をつけて躍動的に表現するものや、四人から六人でゆったりと優雅に舞うものなど、さまざまな表現があります。日本古来の舞に基づいた「国風舞」（くにぶりのまい）、中国や東南アジアなどから渡ってきたものに基づいた「左方の舞」、朝鮮半島から渡ってきたものに基づいた「右方の舞」に分けられ、それぞれ伴奏形態、衣装の色彩、舞振りなどにそれぞれの特徴があります。

「歌謡」（うたよう）は雅楽器の伴奏をつけた声楽曲です。

***** 雅楽には独特の楽器が使われます。*****

管 楽 器



鳳 笙

箎 箎

龍 笛

鞆 鼓

樂太鼓

鉦 鼓

鳳笙 (ほうしょう)

鳳笙は17本の竹を束ねたような魅力的な形で、その姿は伝説の鳥・鳳凰が翼を立てて休んでいる姿を表現していると言われています。

吹き口より息を入れたり吸ったりすることでリードが振動して音となります。合奏では主に和音を奏で、手移りという運指法と気替えという息づかいによって、主旋律を奏する箎に正確な音程を知らせ、全体の曲の流れをリードする役割があります。

優雅で透き通ったその音色は「天から差し込む光」を表しています。

箎 (ひちりき)

箎は表に7つ、裏に2つの指孔のある竹管に葦(よし)を削ってつくったリードを差し込んで吹く縦笛です。合奏では主旋律を担当し、メリハリや塩梅と呼ばれる奏法により、口腔内の容積を変えたり、息づかいの強弱によって音を変化させることができますので、歌うように自由に演奏できるのが特徴です。楽器の大きさとは反対に音量はとても豊かで、力強いその音色は「地上にこだまする人の声」を表しています。

龍笛 (りゅうてき)

龍笛は横笛(おうてき)とも呼ばれる竹製の笛で、息を吹き入れる歌口のほかに7つの指孔があります。息の使い方によって同じ指孔で1オクターブという広い音域を出すことができ、装飾的な旋律を奏するのが特徴です。

龍の笛という名の通り、その音色は「天と地の間、空を翔ける龍の鳴き声」を表しています。

打 楽 器

鞆鼓 (かっこ)

鞆鼓とは鼓の一種で、木製の台の上に奏者の正面に横向きに置き、二本の桴を使って左右両面を打ちます。演奏の開始や終わりの合図、そして曲の流れや緩急をリードして演奏のテンポを決めたり、いわば指揮者の役割を担います。雅な情緒を醸し出し、演奏の鍵を握る中心的存在の楽器です。

樂太鼓 (がくだいこ)

樂太鼓とは雅楽で使用される平太鼓を円形の枠に吊るした太鼓で、先端に革を巻いた二本の桴で力強く革面を打ちます。合奏では、中央に鎮座して大きなリズムパターンを刻み、演奏に重厚さをそえる大型の打楽器です。

鉦鼓 (しょうこ)

金属製の皿型を架台に吊るし、玉や牙、水牛の角などの固い素材でつくられた二本の桴で凹面を打って鳴らす楽器です。合奏では小さなリズムパターンを刻み、全体を引き締める高く澄んだ音色は音楽に奥行きをあたえます。

絃 楽 器

楽琵琶(がくびわ)と楽箏(がくそう)は曲のリズムやアクセントを刻み、楽曲の調子によって調絃をかえます。

成田山雅楽演奏会（毎年10月に光輪郭にて実施される）



さんしゅ
散手（左方の舞）



かんげん
管絃
ぶがく
舞楽



ばいろ
倍臚（右手の舞）

四月の聖徳太子報恩大法会厳修時に行われた舞楽



かりょうびん
迦陵頻（左手の舞）



成田山職員の雅楽部



成田山職員による雅楽演奏



御護摩祈祷時の雅楽演奏

右の絵を見ると左側の壇上に雅楽演奏隊が見られる。
成田山では、現在は各種法要行催事・御宝前結婚式等の折に奏楽しているようです。